

## 第 42 回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 20 年 11 月 7 日（金） 午後 2 時 30 分から午後 4 時 30 分まで
- 2 場 所 大阪市役所 屋上階（P1）会議室
- 3 出席者  
（委 員）  
藤田会長、村田副会長、大橋委員、小川委員、小畑委員、竹内委員、武智委員、  
田村委員、花嶋委員、原田委員、福岡委員、宮川委員、吉田委員  
（大阪市説明者）  
平松市長、柏木副市長、深津環境局企画担当課長、渡邊環境局減量美化担当課長、山  
本環境局一般廃棄物規制担当課長、清原環境局企画担当課長代理（司会）
- 4 議 題  
「新たに実施すべきごみ減量・リサイクル施策」について（緊急諮問）
- 5 議事要旨
  - （1） 大阪市から緊急諮問に至った経過についての説明があった。
  - （2） 意見等の概要は以下のとおり
    - ア 分別排出についての啓発指導を、もっと徹底してもらいたい。
    - イ 他都市の産業廃棄物業者が大阪市の焼却工場へ搬入することは市民感情として許されない。ピット前検査を徹底して行うべきである。
    - ウ 普通ごみの 3 分の 1 を占める生ごみのリサイクル対策として、バイオマスも検討すべきである。
    - エ ごみ減量の明確な目標を市民に対して掲げて、施策を進めていくべきである。
    - オ ごみ減量については、幅広い市民・事業者の協力が必要であることから、例えばマスコットキャラクターを用いるなど、市民等の関心を集める工夫が必要と考える。
    - カ 容器包装プラスチックの分別が進めば、経費が嵩む問題があるが、原則的にマテリアル・リサイクルを行い、やむ得ないときは焼却するという方向で資源の循環を行うべきだ。
    - キ 収集運搬の許可業者が収集しているアパート・マンションの分別排出の実態調査や啓発指導を徹底して行うべきである。
    - ク 焼却ごみを減量することが大きな目標になっていると思うが、減量のためにはコストを考えないというのではなく、コストを意識して施策展開していくことが必要だと思う。
    - ケ ごみの減量が、焼却工場の閉鎖につながるなどの話は、市民に対して施策をアピールしていく上で、非常に効果的だと思う。
    - コ 紙パック等の拠点回収の実施状況等について、市民にもっと情報提供して欲しい。
  - （3） 今後の予定
    - ア 平成 21 年 1 月頃までに、当面実施すべき施策について中間答申
    - イ 平成 21 年 5 月頃までに、最終答申
- 6 会議資料
  - （1） 第 42 回大阪市廃棄物減量等推進審議会 資料
  - （2） その他配布物
    - ア パンフレットごみのマナー A B C
    - イ 事業系ごみの分け方・出し方